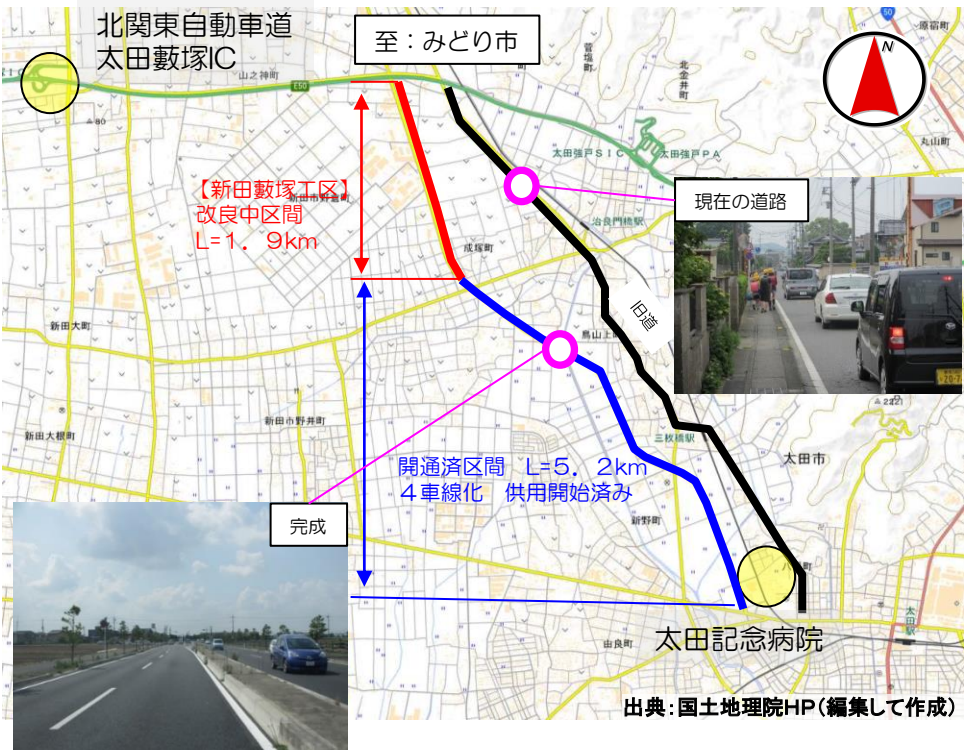


地域の救急医療を支える！

～30分到達圏域の拡大による「助けられる命」の増大～

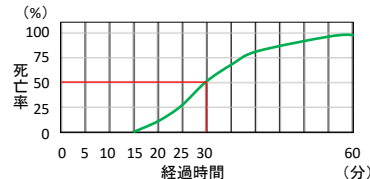
太田記念病院への到達時間が短縮

バイパスの開通による救急搬送時間の短縮により、重篤な救急患者の受入が可能な太田記念病院へ30分以内で到着できるエリアが拡大し、救急医療サービスの向上が図れます。



30分到達圏域とは？

救急活動における経過時間と死亡率



出典：カーラーの救命曲線（1981年発表）

多量出血の場合、出血から処置・治療までの時間が30分を超えると50%の割合で死亡するとされています。

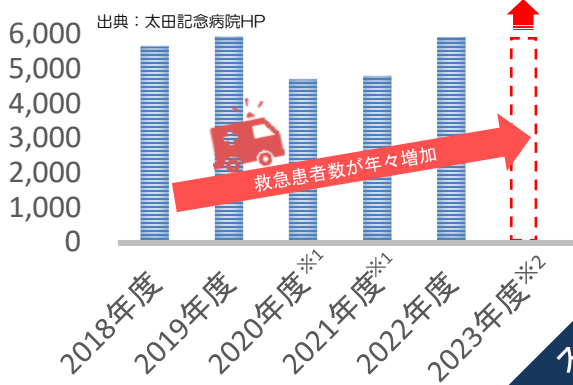
【効果1】(主)太田大間々線バイパス全線開通による効果

- 太田大間々線バイパスが全線開通することで、太田記念病院と北関東自動車道太田藪塚ICとのアクセス時間を約5分短縮。
- 太田記念病院への30分到達圏域が桐生市役所付近まで拡大し、人口換算で約56,000人に増加。



【効果2】救急車実患者数の推移

※1 新型コロナ感染拡大による国民行動変容により、救急患者数が全国的に減少。(総務省HPより)
 ※2 新型コロナから類移行に伴い、増加が見込まれる。



ストック効果